

# い さ む ち ゃ ん

桜 田 佐

(三)

たまちゃんのおとうさんが大きな声で、

「ことしのおきやくさんは、いさむちゃんでーす。」

というと、みんな「ウワー」といって、バチバチバチバチと手をたたきました。

いさむちゃんはおじぎをしました。

たまちゃんのおとうさんが、

「いちばんはじめに、会長のゴリラのゴリくんのごあいさつ。」  
すると横のほうから毛むくじやらのゴリラのゴリゴリくんが出てきました。

「エッヘン、オホン。大みそかの晩は人間どもにはいそがしいときであるが、われわれ動物にとっては一年に一度のたのしいときであります。人間のうちにいるものは、そつとぬけだし、森に住んでいるものは森から、穴の中のもののは穴の中から、山のものは山からとびだしてきてここに集まります。そして、話をしたり、歌をうたったり、ごちそうをたべたりして、あそぶのであります。わたしたちは、この日、わたしたちにしんせつにしてくれる子ど

もをひとり、おきやくさんによぶのであゝる。ことしのおきやくさんはここにゐるいさむちゃーん。」

みんながまた「ウワー」といって、パチパチパチパチと手をたたきました。

「いさむちゃんのこあいさーつ。」

いさむちゃんが立ちあがりました。

「ぼくをおきやくさんによんでくださってありがとうございます。みんなでゆかいに大みそかの晩をおくりましょう。そして元氣にお正月をむかえましょう。」

こういっていさむちゃんがおじぎをすると、またみんながパチパチと手をたたきました。

「ようちえんの子どもたちのゆうぎ。」

ピアノが、タンタンタカタカターントン、となりだしました。すると、それにつれて、小さな子どもたちがはいつてきました。うしの子ども、うまの子ども、いぬの子ども、ねこの子ども、さるの子ども、うさぎの子ども、りすの子ども、ぶたの子ども、やぎの子ども、ひつじの子ども、あひるの子ども、にわとりの子ども、そのほか、たくさんの子どもたちが、いさむちゃんの前で

わをつくりました。

ようちえんの先生はうさぎさんです。

「はじめ。」

「もういくつねるとお正月……」

子どもたちは大きな声でお正月の歌をうたって、ゆうぎをしました。

「うまい、うまい。」

「きれいにそろふなあ。」

パチパチパチパチ、とはくしゅがおこりました。

「つぎはおさるのブランコ。」

たくさんのおさるが出てきました。二ひきのさるがするするとやねうらにのぼって、はしらにぶらさがると、つぎつぎにほかのさるが手をとってぶらさがり、ぶーらんぶーらんゆすぶって、両方の下のさるが手をつなぎ、はしをつくりました。それにまた大ぜいのさるがとびつき、ぶらーりぶらーりぶらーりぶらーりととてもおもしろいぶらんこをしました。

そのとき、むこうのほうから、ずしんずしんと地ひびきがきこえてきました。

なんでしょう？

あつ、ぞうです。大きなぞうです。動物園からかけつけたのです。

「ああ、つかれた、つかれた。いっしょうけんめいかけてきたのでね。」

ぞうさんはハーハー息をはずまっています。さむいのに汗をながしているの、うさぎさんがせなかをふいてやりました。

「ぞうさん、何かやってください。」

「よし、きた。」

ぞうさんは大きなフラ・フープをからだにはめ、はなに小さなフラ・フープをかけました。

ぞうさんはなを上にむけて動かしながら、じょうずに小さなフラ・フープをまわしました。そして、それいっしょに、大きなおなかを前に出したり、うしろに引いたりして、人間がつかうのよりずっとずっと大きなフラ・フープをぐるぐるぐるまわしました。

「一、二、三、四……」

と、子どもたちがかんじようしています。みんなが、

「うまいぞ、うまいぞ。」

「しっかり、しっかり。」

「おとすな、おとすな。」

と、さけびました。

ところが、ぞうさんはとてもじょうずで、いつ

までもいつまでもつづけます。

そのうち、だれかが、

「おなががすいた。おなががすいた。」

と、いいました。そうすると、みんながいっしょに、

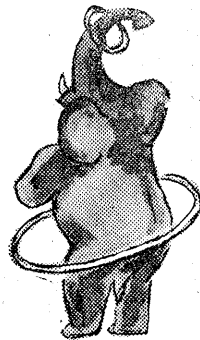
「おなががすいたー。」

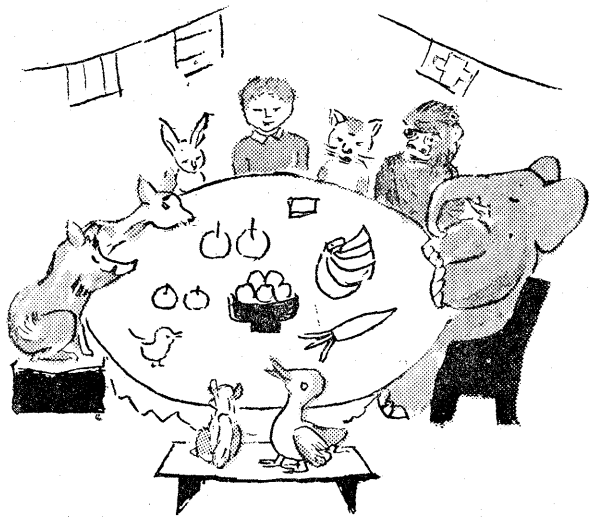
「おなががすいたー。」

と、さけびました。ぞうさんもおなががすいてしまつて、ちゅうでやめてしまいました。

「ごちそうだ——。ごちそうだ——。」

と、みんなが口をそろえてさけびました。





(四)

「ごちそうだ——、ごちそうだ——」  
と、みんながさげびますと、ゴリラのゴリゴリくんが、  
「エッヘン、オッホン。では、みなさん、食堂へ。」

と、いいました。すると、おくの戸がさつと両がわにひらきま  
した。みんな、「ウワー」といって、食堂へはいりました。おし  
あったり、ついたり、たいへんなさわざです。

「ワンワンワンワン」

「ブーブーブーブー」

「ニャーニャーニャーニャー」

「モーモーモーモー」

「メーメーメーメー」

「ペーペーペーペー」

「ガーガーガーガー」

「コケーコッコッコッコー」

中へはいって、びっくりしました。大きなへやです。床には赤  
いきれいなじゅうたんがすみからすみまで敷かれています。てん  
じょうには旗がいっぱいかざられ、まわりには色ちようちんがぶ  
らさがり、まどにはキラキラ光る美しいカーテンがかかっていま  
す。そして、てんじょうのまんなかに大きな電燈があかるいあか  
るい光をあたりいちめんにパツとなげかけています。

「わあ、きれいだなあ。」

と、おもわずみんながさげびました。

テーブルにはごちそうがいっぱいならんでいます。チョコレート、ケーキ、りんご、みかん、バナナ、おもち、せんべい、なんきんまめ、さつまいも、だいこん、にんじん……

大きなすや小さなす、高いす、低いす、いろいろなすがならんでいるので、みんなじぶんのからだにあつたいすにこしかけました。ぞうさんやうまさんやうしさんやくまさんはなるべく大きいのをえらんでかけました。いさむちゃんはまだなのすに、ねこのたまちゃんとならびました。

あひるくんやきつねくんは、バナナやチョコレートやケーキなど、なるべくおいしそうなごちそうののっているおさらの前にこしかけました。

「おあがりなさーい。」

「いただきます。」

さあ、それからしばらくは、バクバクバクバク、ベチャベチャベチャベチャ、モグモグモグモグ、みんな話もしないで、むちゅうでたべています。りすくんが両手でじょうずにくりをかかえてたべています。さるくんもいそがしそうにみかんのかわをむいて

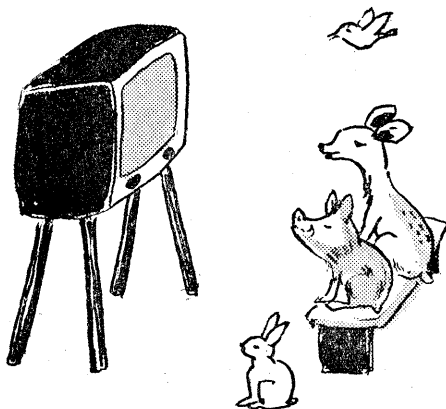
り、なんきんまめのかわをむいています。

ぞうさんが大きなおいもを下にころがして、足でグイグイグイとおして、メリメリメリとつぶし、はなでつかんで口へはこびます。

たった一つのこったようかんに、いぬのごろうくとさるのあかきちくんがいっしょに手を出しました。

「ずるいよ、ぼくがさきだよ。」

「いいや、ぼくがさきだ、きみなんかもう五つもたべたじゃないか。」



「きみだって、バナナを三本もたべたじゃないか。」

とつくみあいのはじまりました。

おなかがいっぱいになって、ごろんとねてしまったのかもしれない。べつの席の友だちのところへ話しに行っているのみたいです。

テレビがうつりました。

『ハッケヨイ、くまのオークロくんが、ぶたのぷくぷくくんをおししました。』

これは、きょねんの大みそかにとつたすもうのしゃしんです。

つぎは、地球が火星に近づいた日のこと。山の上でやぎくんがいつししょうけんめいぼうえんきょうをのぞいています。

『あ、見えるぞ、見えるぞ、火星にも海や山があるようだ。』

つぎは、世界各地の大みそか風景。

南極ではペンギンたちが氷の上で運動会。ヨチヨチヨチヨチと

旗とりきょうそうをしています。

『白、白、早く早く……』

『赤、赤、しっかりしっかり……』

北極ではくまが二ひき、さかなつりをしています。

『どうです、つれますかね?』

『お正月に子どもたちにたべさせたいと思うのですが、人間たちがたくさんとってしまったので、あまりえものはありません。』

たぬきくんが雪の上でスキーをしているところや、大きなわしくんが高い山の上をとんでいるところもうつりました。

そのとき、とつぜんまわりでサーッサーッザワザワザワという大きな音がしました。それといっしょに上のほうから、チャラチャラチャラ、チカチカチカチカという音がきこえてきました。

いったい、なんでしょう?

\*

\*

\*

一月号 22 頁 設計図 「絵をかける壁」は絵を

かくことが出来る、つまり、子どもがいつでも思いきって大きな絵をかけるような壁のことです。

絵が掛けてあるのは間違いですから御注意下さい。